

- 一般河川、農業用水、既設ダム、砂防堰堤など、現在利用されていない水のエネルギーを有効利用する再生可能エネルギー事業です。
- 水が流れる位置エネルギーを利用し、水車を回して発電するため、発電時にCO<sub>2</sub>を排出しません。
- 風や日射など一時的な天候変化の影響を受けにくいため、昼夜を通して安定した電力の供給が可能です。

## ◆ 取組概要

### 取組背景

#### ■ 日本政府のエネルギー基本方針

日本政府も「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と表明。2030年度のエネルギー需給計画において、再生可能エネルギーは全発電量の36～38%（内、水力11%）と2019年度に比べて2倍増を目標としています。

#### ■ 脱炭素社会への貢献

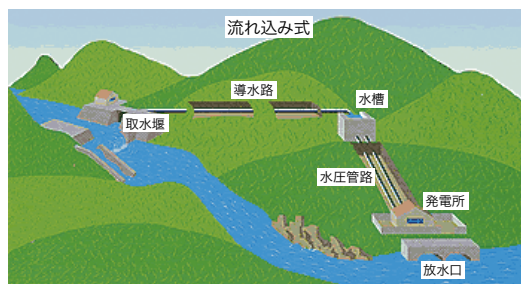
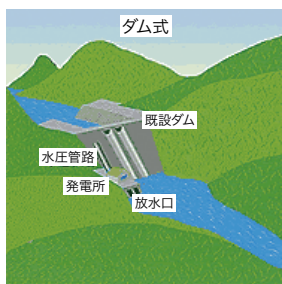
当社が事業で排出するCO<sub>2</sub>を相殺できるだけ再生可能エネルギーを世の中に供給することで、エコファーストの約束で掲げた「2030年のCO<sub>2</sub>ネットゼロ」を達成します。

### 事業概要

- 当社が事業主体となり、小水力発電所を新たに開発、建設、運営します。
- 発電所の開発、建設、運営に当たっては地元企業やパートナー企業と協業します。
- 固定価格買取制度やオフサイトPPA等により再エネ由来の電気を販売します。
- 長期にわたり地元根付いた発電所を運営していく中で、発電事業だけではなく、地域が抱える課題を町づくりを通して解決していきます。

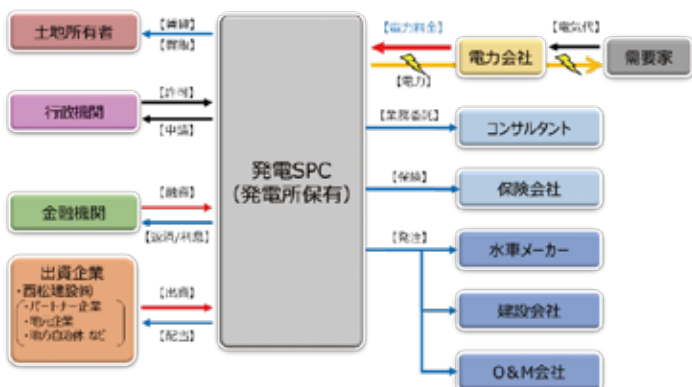
## ◆ 取組方針

- 発電設備が設置されていない既設のダムを利用するダム式、一般河川や水路から直接取水する流れ込み式をターゲットにしています。
- 1か所当たりの発電規模は200kW程度から1,000kW程度を目安に取り組めます。



出典：資源エネルギー庁ホームページ

## ◆ 事業スキーム(例)



## ◆ イメージ図

